

会 議 結 果 報 告 書

令和 7 年 8 月 1 9 日

会議の名称	第 3 回 東地区まちづくり懇話会	
種別	☐ 附 属 機 関 ☒ 懇 話 会 等	
開催日時	令和 7 年 8 月 5 日（火）10 時 00 分 ～	
開催場所	市役所別館 6 階 6 1 1 会議室	
出席者	別紙のとおり	
議題	・ 大門・七条通り周辺の再開発構想について ・ まちづくりについて	
公開の区分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍聴者数	0 名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備考		

担当課	舞鶴市建設部都市計画課 TEL (0773)66-1048
-----	---

第3回東地区まちづくり懇話会

1. 日時:令和7年8月5日(火)10:00~12:00

2. 場所:市役所別館6階 611会議室

3. 出席者:(委員)嶋田委員、川井委員、名取委員、芦田委員、福村委員、渡邊委員、岡井委員(オブザーバー)
(事務局)上羽次長、山下主幹、阿部係長、浪江

山本次長

4. ゲスト:志摩機械株式会社 代表取締役社長 志摩 敏樹 様

5. 内容

【講演内容】

I. 商店街との関わりについて

○福知山シネマの再生

・2007年に廃業した福知山の映画館を承継し、「福知山シネマ」として再開した。運営は、映画を通じて知り合った方の協力を経て再開に至った。

・商店街活性化と言われる大きな事業と歩調を揃えている訳ではなく、自分たちが粛々とやっている結果として、今日の集客に至る。

・映画館は集客のマグネット効果を持つため、これを活用すべきだと考える。

○出町座の立ち上げ

・京都市の廃校で映画に関連した事業を続けていたが、廃校の売却に伴い、出町桝形商店街の空きビルに移転し、「出町座」という2スクリーンの映画館を作った。

・出町座のオープン後、空き店舗等に古本屋、カフェやギャラリーができるなど、マグネット効果により商店街の空き店舗はほとんどなくなった。

・出町桝形商店街は「商店街」である。個店でほぼ全ての買い物が成立する昔ながらの商店街が存続している。

○上林での事業

・綾部市の奥上林で廃校が閉鎖され、活動拠点を失う人々の存在を知り、現地を訪れた際にその廃校を残すべきだと感じた。木造の渡り廊下が非常に見た目も良い。

・準備を進めている事業もあり、うまく軌道に乗れば、雇用も生まれるし、移住者への働く場も提供できる。マッチングできれば、商店街再生まではいかずとも、それに近いものができると思う。

・なぜ残すかという、「そこに村があるから」であり、理由はない。うまく残すことができれば、卒業した方々にも良かったなと思ってもらえると思う。

・自身の手の届くところの地域はできる限り何らかの形で関与しながら、延命・永続的なものが作れると良い。

II. まちづくりについて

○まちづくりへの考え方

・これまでの事業において、「まちづくり」という言葉を使ったことがない。「まちづくり」は非常に抽象的な言葉である。「人」が重要であり、志を持つ人を行政がどう持ち上げるかが大切である。

○舞鶴での事業構想

・大門・七条通りについては、元々中央市場があった場所を再開発している。本当は中央市場を残したかったが、老朽化が著しいため、コンビニを計画しており、夜でも明るい感じにしたい。

・八千代館は元々は八島商店街も考えていた。映画館を集客の核として、商店街・駐車場と回遊性を持たせる構想もあった。

・最近、夜の市が盛り上がってきたのは、行政が支援したからではない。行政に頼らず個々が自立しているため、それにより人とまちが元気になっていると考える。

○舞鶴高専との連携

・舞鶴高専の学生は一流企業から声がかかるため、四大への進学も含め、多くが舞鶴から出ていってしまう。

・高専生が舞鶴に留まるためには、魅力的な場所や才能を活かせる場を作り、舞鶴が面白いなと思ってもらえるような場所になるべきである。

・高専の市街地への移転について議論したこともある。舞鶴にとって、短期的ではあるが宝であるはずのため、いかにしてまちを元気にする一つのエンジンとして受け皿を整えられるか。

【意見交換】

・舞鶴高専の寮が街中にあれば、学生が商店街に興味を持つきっかけになるのではないかと考えている。

・イベントは定期的に定着しないと意味がない。だるま祭りなどのイベントを定着させ、人が集まる場所を作ること、商店街に新しいお店を出そうと考える人も増えるのではないか。

→商店街というものを作るなら、儲からない店も必要である。儲からないこともやるということと言うと、商店街を一つの事業会社として運営し、利益を分配する方式でないと難しい。

・優秀な高専生が地元を離れて一流企業に就職してしまうのはもったいない。

・高専生が舞鶴で起業し、日本一の会社に成長すれば最高だという夢を持っている。そのための起業支援のサポートができれば良いと考える。

・社長の考えは「人」を起点として「場所」や「事業」を生まれていく流れで、事業として成立させるためには、それを担える人がいて、場を作ったり維持させていくことができることだと感じた。

→自身が選んでいる人は、非常に面白い振った人。そういう人と仕事をするのが楽しい。

・一方、「場所」を先に作ってから「人」を入れるといったシステムが、いわゆる「まちづくり」的なものであり、逆の流れだと感じる。

→うまくまとめていただいた。ただ、例えばまちづくりという言葉を使えば、確かにやりやすい事業もあると思う。

- ・商店街には大型店にはない「ここじゃないと買えない」ような魅力的な個店を残すべきだ。

- ・学生が街中にいる理想の街のイメージを広めることで、人々の意識を変えていくべきだ。

- ・都市部の大学では、郊外キャンパスの人气が下がり、駅に近い街中へ移転する傾向がある。今後の少子化を考えると、学校が生き残るためには、街中へ移転しないと難しく、学生にとっても、街中で日々生活することは非常にいい利点である。

- ・商店街は、個々の店舗がバラバラに運営するのではなく、エリアマネジメントの考え方を取り入れ、全体をコントロールする組織になれば、全体利益を考えてテナントを入れるようなこともできるようになる。そのような手法の検討も必要かと考える。

- ・高専生は非常に優秀であり、彼らの提案をアピールできる機会があればよい。提案して終わりではなく、実現できそうなことが一つでも実現されれば、学生のモチベーションも高まるのではないか。